おおやまどうちゅうひざくりげ

＃43 大山道中膝栗毛

作者：鈍亭魯文（どんてい・ろぶん　1829-1894）
刊行：安政４年（1857）

◇◇◇

レクションで確認できる。

■　作者

鈍亭魯文は、文政 12 年（1829）、江戸京橋槍屋町に生まれた。本名を野崎文蔵といい、假名垣魯文の別号がある。幕末から明治前期の戯作者であり、『滑稽富士詣』（1860 年）、『万国航海西洋道中膝栗毛』（1870 年）、『牛店雑談安愚楽鍋』（1871 年）などの作品がある。明治６年（1873）に、神奈川県庁の雇員となったことを契機に戯作者を辞めたが、明治７年に横浜毎日新聞に招かれて雑報記者となった後は、仮名読新聞社やいろは新聞社を起こす等、いろいろな新聞に関係し、際物師的手腕で有能な新聞人として活躍した。

絵師の一松齋芳宗（いっしょうさい・よしむね）は、江戸時代末期から明治時代にかけての浮世絵師で、文化 14 年（1817）に生まれた。姓は鹿島、俗称は松五郎といい、19 歳の時に歌川国芳の門に入った。画名は芳宗、一松齋の号を与えられ、武者絵、役者絵などを描いた。

📖　参考文献

＜影印・翻刻＞

「大山道中膝栗毛」（『武相膝栗毛』（神奈川県郷土資料集成 10）神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会編 神奈川県図書館協会 1983）［K97/46］

＜影印＞

「大山道中膝栗毛」（『膝栗毛文芸集成 第 34 巻』中村正明編集･解題 ゆまに書房 2016）［K97/168/34］

＜参考文献＞

『浮世絵事典 下巻』吉田暎二著 画文堂 1971［721.8/70/3］

『武相膝栗毛』神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会編 神奈川県図書館協会 1983（神奈川県郷土資料集成 10）［K97/46］

『品川の大山信仰』品川区教育委員会 2009［K17.64/55］

『膝栗毛文芸集成 第 34 巻』中村正明編集･解題 ゆまに書房 2016［K97/168/34］

『大山詣り』川島敏郎著 有隣堂 2017［K17.64/61］［163.1/143］